医学教育分野別評価　浜松医科大学医学部医学科　年次報告書
2026年度

医学教育分野別評価の受審　2019（令和元）年度
受審時の医学教育分野別評価基準日本版　Ver.2.2
本年次報告書における医学教育分野別評価基準日本版　Ver.2.36
本年次報告書における教育活動等の対象期間　令和7年4月1日 ～令和8年3月31日

はじめに

本学医学部医学科は、令和元年に日本医学教育評価機構による医学教育分野別評価を受審し、令和3年2月1日より7年間の認定期間が開始した。医学教育分野別評価基準日本版Ver.2.36を踏まえ、令和7年度の年次報告書を提出する。なお、本年次報告書に記載した教育活動は、日本医学教育評価機構の作成要項に則り、令和7年4月1日～令和8年3月31日を対象としている。また、重要な改訂のあった項目を除き、医学教育分野別評価基準日本版Ver.2.36の転記は省略した。

２．教育プログラム

2.2　科学的方法

基本的水準

改善のための助言

・批判的思考、EBMを６年間にわたりらせん型かつ系統的に教育すべきである。
・EBMに基づいた臨床実習教育を充実すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

臨床実習期間中に主治医チームの一員として学生を診療に参加させ、臨床上の疑問や課題について文献検索や考察・発表を行う機会を設けるなど、EBM に基づく問題解決能力の育成に関する取り組みを一部の診療科から開始した。

教育活動等の状況がわかる資料

資料01　（部外秘）令和７年度臨床実習の手引_1226

2.3　基礎医学

質的向上のための水準

改善のための示唆

・現在および、将来において社会や医療制度上必要となることを6年一貫医学教育の中で検討し、その検討結果を踏まえ、基礎医学教育のカリキュラムを調整、修正することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

実習のデジタル・トランスフォーメーションを推進し、伝統的な解剖実習にデジタル技術を融合させることで学習効果の一層の向上を図るカリキュラムへと改訂をはじめた。その取り組みの一つとして、解剖実習にタブレットを導入し、組織学実習にはバーチャルスライドを新たに導入した。

教育活動等の状況がわかる資料

資料02　導入に関する資料（解剖実習室タブレット　システム概要）

2.4　行動科学と社会医学、医療倫理学と医療法学

基本的水準

改善のための助言

・行動科学について６年間にわたり、らせん型かつ系統的に教育すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

１年次の早期臨床教育、４年次の臨床医学・行動科学の合同ワークショックに関する学生アンケートを実施した。

分析の結果、行動科学と臨床医学のつながりに対する学生の理解が深まったこと、早期教育により学業に対するモチベーションが向上したことが示された。

教育活動等の状況がわかる資料

資料03　（部外秘）行動科学らせん型教育に関する学生アンケートデータ

５．教員

5.2　教員の活動と能力開発

基本的水準

改善のための助言

・新任教員に対し学部の使命や教育プログラムに関する研修会を実施し、教育能力の開発と支援を行うべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

新任教員に対して、使命や教育プログラムに関する研修会を実施した。

教育活動等の状況がわかる資料

資料04　令和７年度FD計画等

６．教育資源

6.1　施設・設備

基本的水準

改善のための助言

・学生に携行可能な医療安全・感染対策マニュアルを配布し、遵守させるべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

令和７年度も改正した医療安全ポケットマニュアルを配付し、引き続き臨床実習の際に携帯させた。

教育活動等の状況がわかる資料

資料05　医療安全ポケットマニュアル（令和７年度版）

6.3　情報通信技術

質的向上のための水準

改善のための示唆

・診療参加型臨床実習を充実させるために、学生が電子カルテを活用しやすい環境を整備することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

学生用PCルームの利用状況調査を行い、学生が電子カルテを活用しやすい環境の改善に資する解析を行った。

教育活動等の状況がわかる資料

資料06　令和６年度学生用PCルーム解析結果

6.5　教育専門家

質的向上のための水準

改善のための示唆

・医学教育に関わる研究をさらに推進することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

医学教育推進センターの教員が医学教育学会等において、医学教育に関わる研究の成果について発表等を行った。

教育活動等の状況がわかる資料

資料07　令和７年度医学教育推進センターの業績

７．教育プログラム評価

7.1　教育プログラムのモニタと評価

基本的水準

改善のための助言

・IR室が収集したデータをもとに、6年間の学修成果をモニタすべきである。
・プログラムとその主な構成要素を適切に評価すべきである。
・プログラムが学生の進歩を促すように整備されているかを適切に評価する仕組みを確立し実施すべきである。
・プログラムの各構成要素について、どのような課題があるかを特定する仕組みを確立し、カリキュラム改善を実施すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

IR室が収集・整理した各種データを基に、医学科カリキュラム評価委員会において、６年生のコンピテンシー達成度および満足度、標準修業年限内卒業率、医師国家試験合格率等の指標を用いて、学修成果の確認を継続的に実施した。

あわせて、各学年における退学・休学・留年状況のモニタリングを行った。

加えて、１年次・３年次・５年次に実施しているTOEICについて、令和７年度から同一学生におけるスコアの推移に着目した整理・分析を開始し、IR室において学年進行に伴う能力の変化や教育の効果の検証を行っている。

教育活動等の状況がわかる資料

資料08　（部外秘）令和７年度 医学科コンピテンシー（学修到達目標）に関する自己評価アンケート調査結果報告書
資料09　国立大学医学科等 標準修業年限内卒業率
資料10　国立大学医学科等 医師国家試験合格率（新卒及び総数）
資料11　医学科 留年者・休学者・退学者数
資料12　（部外秘）１年次GPAとCBT成績と国家試験成績等の関係について（令和７年度卒業生）

資料13　（部外秘）GPAと共用試験CBT成績との関連等について（令和７年度）
資料14　医学部医学科TOEIC点数の経年比較

質的向上のための水準

改善のための示唆

・教育活動とそれが置かれた状況を特定し、その状況を踏まえてプログラムを評価することが望まれる。
・プログラムの特定の構成要素について、適切に評価する仕組みを確立し、定期的に実施することが望まれる。
・長期間で獲得される学修成果を特定し、その状況を踏まえてプログラムを評価することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

卒後４年目の卒業生を対象としたアンケート調査を実施した。
本年度は、従来の郵送による調査に加え、Eメールによる調査を併用して実施した。加えて、アンケート回収率の向上を目的として、近隣病院におけるアンケート実施方法についてヒアリングを行うなど、回収方法の改善に向けた検討を継続した。
さらに、令和７年度は卒業生が多数在籍していると考えられる近隣医療機関に対し、IR副室長およびIR担当者が直接訪問し、アンケートへの回答協力を依頼した。

教育活動等の状況がわかる資料

資料15　（部外秘）令和７年度 医学科の教育に関するアンケート調査結果報告書（卒業生対象）
資料16　（部外秘）令和７年度第２回医学科カリキュラム評価委員会議事要旨

7.2　教員と学生からのフィードバック

基本的水準

改善のための助言

・教員と学生からフィードバックを系統的に求め、分析し、対応すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

６年生への卒業時アンケートについては、定期的に実施し、学生から教育プログラムに対する意見を収集し、調査結果報告書にまとめた。

教育活動等の状況がわかる資料

資料08　（部外秘）令和７年度 医学科コンピテンシー（学修到達目標）に関する自己評価アンケート調査結果報告書

7.3　学生と卒業生の実績

基本的水準

改善のための助言

・学生と卒業生の実績データを、使命と意図した学修成果、カリキュラム、資源の提供の観点で分析すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

GPA、CBT、卒業試験、国家試験自己採点結果等の客観的指標を用い、学生の学修成果とカリキュラムとの関連分析を継続的に実施した。
その結果、CBT成績と国家試験自己採点結果との間に高い相関が確認され、分析結果は教務委

員会等で共有し、学生指導およびカリキュラム改善に活用している。
　また、成績分析結果を踏まえ、低学年時に成績不振が認められた学生に対しては、面談や学修支援を実施し、円滑な学修移行を支援している。
　令和７年度学生生活実態調査集計結果からは、施設整備や学修スペースの改善を含む学修環境の充実が、学生の学修に寄与していることが確認されており、個人学修・グループ学修の双方に対応した環境整備についても肯定的な評価が得られている。

教育活動等の状況がわかる資料

資料12　（部外秘）１年次GPAとCBT成績と国家試験成績等の関係について(令和７年度卒業生）
資料13　（部外秘）GPAと共用試験CBT成績との関連等について(令和７年度）
資料17　（部外秘）令和７年度学生生活実態調査集計

質的向上のための水準

改善のための示唆

・学生の学修成果の達成に関するデータを収集し、その分析結果を入試委員会、カリキュラム委員会、および学生支援に関する委員会にフィードバックすることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

　IR室が学修成果の達成に関するデータを収集し、その分析結果をカリキュラム評価委員会及び教務委員会へ引き続きフィードバックを行った。

教育活動等の状況がわかる資料

資料16　（部外秘）令和７年度第２回医学科カリキュラム評価委員会議事要旨
資料18　（部外秘）令和７年度第１回教務委員会議事要旨
資料19　（部外秘）令和７年度第８回教務委員会議事要旨

7.4　教育の関係者の関与

基本的水準

改善のための助言

・教職員、卒業生、学生のみならず、他の医療職、患者、公共ならびに地域医療の代表者などにもプログラム評価の結果の閲覧を許可することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

　医学教育の透明性を確保するとともに、幅広い教育関係者からの理解および意見を得ることを目的として、教育プログラムの評価結果および関連情報を学内外に公開している。
　統合報告書を作成し、本学ホームページに掲載するとともに、新入生、同窓会関係者、公開講座受講者、職員採用試験受験者、高等学校、大学院生、ならびに経営協議会委員（学外委員）等に配布している。
　また、協力病院や自治体等の関係機関に対しても、本学ホームページを通じて常時閲覧可能な体制を整備している。
　掲載ページにはWebアンケートフォームを設置し、学外からの意見収集も行っている。

教育活動等の状況がわかる資料

資料20　浜松医科大学統合報告書2025（紙版）
資料21　浜松医科大学統合報告書2025（HP版）
資料22　浜松医科大学統合報告書2025　アンケートフォーム

質的向上のための水準

改善のための示唆

・卒業生の実績とカリキュラムについて広い範囲の教育の関係者からフィードバックを得ることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

研修責任者アンケートの結果については、回答に協力いただいた医療機関の責任者宛てにフィードバックを行い、結果の共有を図っている。

教育活動等の状況がわかる資料

資料23　令和６年度 医学科学修成果に関する卒業生研修先上司アンケート調査（抜粋）

８．統轄および管理運営

8.1 統轄

質的向上のための水準

改善のための示唆

・より広い範囲の教育の関係者の意見を吸い上げるシステムの構築が望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

経営協議会は年４回開催されており、外部委員として医学・看護学の有識者、地域産業界の代表者、県医師会会長、県病院協会会長、学生の父兄経験者、元文部科学省審議官など、多方面の専門家が参画している。本協議会では、大学の経営に関する課題に加えて、教育の現状や方針についても説明を行い、委員から幅広いご意見をいただくことで、教育体制および大学運営の改善に役立てている。

教育活動等の状況がわかる資料

資料24　令和７年度経営協議会の学外委員からの意見、主な取組事例
資料25　経営協議会構成員

8.5 保健医療部門との交流

基本的水準

改善のための助言

・静岡県地域医療対策協議会をはじめ近隣の県､市町村などの行政との交流を深めるべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

学長、附属病院長、教員等が、静岡県医療審議会、静岡県医療対策協議会、静岡県健康増進計画推進協議会、並びに県西部地区医療協議会などに参画して、静岡県や市町村と協働して、検討や活動をしている。

教育活動等の状況がわかる資料

資料26　静岡県医療審議会委員名簿
資料27　令和７年度第２回　静岡県医療対策協議会　出席状況
資料28　静岡県健康増進計画推進協議会　委員名簿
資料29　西部地域医療協議会　静岡県公式ホームページ

質的向上のための水準

改善のための示唆

・保険医療関連部門との交流に学生も関わることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

浜松市と市内にキャンパスがある大学の連携による生涯学習事業の一環で、浜松医大学生サークルである災害支援サークルLuce（ルーチェ）による「親子で学ぶ応急処置講座」を開催し、自治体保健医療関連部門と連携をしている。そのほか、他の学生のサークル活動において、自閉症や筋ジストロフィーの患者との交流ボランティアや地域保育施設等での保健教育など地域との協働活動を積極的に行っている。

教育活動等の状況がわかる資料

資料30　（部外秘）令和７年度大学連携事業「大学生による講座」一覧